

北商連ニュース

発行
北海道商工団体連合会
札幌市北区北6条西7丁目
小貫印刷センタービル6階
011-717-3800
Mail: hokusho@deluxe.ocn.ne.jp
2025年9月 第86号

ノーベル平和賞がゴールでなく 核兵器廃絶こそ本当のゴール 原水爆禁止世界大会（長崎会場）



横山照子さん

原水爆禁止世界大会2025年世界大会長崎デー集会が8月6日～9日に開催され、北海道代表団事務局として参加しました。

6日に行った北海道代表団結団式では、特別企画『被爆講話』として日本被団協代表理事・長崎県被爆者協議会副会長・長崎原爆乙女の会会長の横山照子さんがお越し下さりお話をしてくださいました。



ノーベル平和賞受賞式では受賞にあたっての経緯として「『あなた方は決して諦めることもしませんでした。あなたがたは抵抗し続ける象徴で、あなたがたは世界が必要としている光なのです』と伝えられたことが本当に嬉しかった」と当時を思い返してお話してくれました。日々の長崎被爆協での活動では、被爆者として生きるのが辛く苦しく、「なぜ私たちが悪と非難され、こんなにも辛い思いをしているのに被爆者であることを隠し続けて生きなければならないのか。もう生きる価値

がないのなら、一層の事終わりにしたい」と泣きながら話していた方もいて、この人たちの涙をこの先も無駄にしてはいけないと思っただ。と話してくださいました。また長崎平和祈念資料館の近くに長崎青年乙女の会で結成40年の節目に建設

道内民商事務局員は 全国の希望の星 全道事務局員交流会

7月28～29日、全道事務局員交流会が札幌市内で行われ、全道から30人に事務局員と北商連岡田会長が参加しました。

7月20日投票開票の参院選挙の結果を踏まえて、北商連岡田会長が「我々民商・全商連が掲げてきた『消費増減税・インボイス廃止』が選挙争点となり、多くの野党が公約に掲げ、自公政権を過半数割れに追い込んだ」「一方で、与党補完勢力や極右政党が議席を伸ばす結果となったが、消費税減税とインボイス廃止の実現めざして頑張ろう」と挨拶。井上事務局長が「事務局員の役割を考えると、として基調報告を行いました。倉敷民商の瀬屋事務局員

した記念碑があり、一人一人が色々な願いを込めタイムカプセルとして入れており、開けるタイミングは違うけれどノーベル平和賞をきつかけにカプセルを開封しようとはなしたけれど、ノーベル平和賞受賞が本場のゴールではなく、目指すのは核兵器廃絶こそが運動のゴール。それまでは絶対に開けることはしないと一日も早い核兵器廃絶を」と訴えていました。（手記：北商連佐藤留美子事務局員）

をウェブでつないで「倉敷民商弾圧事件」の経過を説明。「今年が裁判の山場」として、弁護団が求める証人・証拠の採用を求め、裁判所への要請書運動への協力を呼びかけました。

「民商事務局員として生きて今思うこと」と題し、全商連池田法仁常任理事（前北商連事務局長）が講演。自身の民商事務局員になるまでの経緯を紹介した後、参院選の結果について「政党支持の内容が『政策の内容』から『感情的な帰属』に結びつく『ファンの支持の構造』に変化している」「SNS時代において、情報の価値は『正確さ』より『共感度』によって評価される」ことを警鐘。「演出された『共感』による情報の歪みに惑わされることがないよう、日常的な学習が重要だ」と呼びかけました。講演の最後に、全国的

意見書には「インボイス導入後の小規模事業者等の苦境や昨今の経営をとりまく環境に鑑みれば、国の支援措置の拡充だけでは不十分であり、小規模事業者等の経営の持続化や地域経済の活性化の重要性を考えると、今やインボイス制度そのものを廃止することが最良の策であると言わざるを得ない」と、インボイス制度の廃止を求めています。

7月20日の参議院選挙では、唯一消費税減税を拒んだ自民党・公明党が後退し、昨年の総選挙と同様に自公政権が過半数割れとなりました。そして、全ての野党が何らかの形で「消費税減税」を掲げて議席を伸ばす結果となりました。

民商・全商連が求めている「消費税減税」「インボイス制度廃止」の実現に大きく道が開かれました。

今こそ、地域の消費税廃止各界連絡会を再稼働させて、「消費税率5%以下への引下げとインボイス制度の廃止を求める請願」署名の集約と、自治体からの意見書採択を求める運動の強化が重要となります。

インボイス廃止意見書
道内2自治体で採択

5月末に道内179自治体に送付した「インボイス制度の廃止等を求める意見書」に対し、美幌町議会（北見）、江差町議会（函館）で採択されました。（7月末時点）

（井上）

意見書には「インボイス導入後の小規模事業者等の苦境や昨今の経営をとりまく環境に鑑みれば、国の支援措置の拡充だけでは不十分であり、小規模事業者等の経営の持続化や地域経済の活性化の重要性を考えると、今やインボイス制度そのものを廃止することが最良の策であると言わざるを得ない」と、インボイス制度の廃止を求めています。

7月20日の参議院選挙では、唯一消費税減税を拒んだ自民党・公明党が後退し、昨年の総選挙と同様に自公政権が過半数割れとなりました。そして、全ての野党が何らかの形で「消費税減税」を掲げて議席を伸ばす結果となりました。

民商・全商連が求めている「消費税減税」「インボイス制度廃止」の実現に大きく道が開かれました。

今こそ、地域の消費税廃止各界連絡会を再稼働させて、「消費税率5%以下への引下げとインボイス制度の廃止を求める請願」署名の集約と、自治体からの意見書採択を求める運動の強化が重要となります。

（井上）



道内民商ニュース

人間は文明文化の豊かさ

分け合うべき

北見民商

広島市で核兵器が使用されて80年目の8月6日、『平和を考える北見市民の集い』が市民会館で行われ約30名が参加。講演の他、献花や朗読が行われました。

開催にあたり木村実行委員長から「昨年（日本被団協が）ノーベル平和賞を受賞し、被爆者たちの長い戦いがついにここまで来たという思いでいます。来年はNPT再検討会議があります。我々も核兵器廃絶の運動を力強く進めていきましよう」と挨拶。その後新婦人の朗読、参加者全員で追悼献花を行いました。

講演は被爆者家族伝承者の豊嶋（てしま）起久子さ



んが、原爆孤児となった叔母の廣子さんから語り継いだ話を聞かせてくれました。

広島市では令和4年度から家族である被爆者から被爆体験や平和への思いを受け継ぎ、それを語る活動をしている子や孫などの親族の支援や各地へ語り部を派遣する活動を行っています。

豊嶋さんの叔母である廣子さんは6人家族。広島に落ちた原子爆弾で家族5人を失いました。縁故疎開で宮島にいた廣子さん。原爆投下の前日となる8月6日に家族、親戚の集まりがあり楽しい時間を過ごしたと言います。しかし、それが家族と過ごす最後の時間となりました。その日のうちに家族は広島市へ戻り、翌日、原子爆弾が投下されました。宮島に住んでいた親戚は原爆投下の次の日には家族を探しに広島に入り被爆したと話します。

豊嶋さんは「廣子叔母さんは父方だけでも13人が亡くなり、母方の親戚も原爆と戦争で大勢亡くしています」と話し、「人間は滅ぼし合うのではなくて、文明文化の豊かさを分けあうべきではないでしょうか。そのことに国境はありません。過去の過ちを繰り返さない。相手の平和を願う心を大切に、核兵器のない世界へと

繋いでいきましょう」と語りました。

5年ぶりの

平和のための戦争展

室蘭民商

コロナ禍もあり、5年ぶりの開催となった室蘭市内での『戦争展』。戦後80年の今年は、7月26、27日の2日間『イオン室蘭店の文化ホール』で開かれました。

室蘭地域の艦砲射撃の状況や資料の展示。克明に調査していたアメリカ軍の資料もあり、当時もことを思いついたながら観ている方もいました。また、中国人や朝鮮人の強制労働についての展示もあり、戦争の被害と加害の両面を考えさせられました。民商が参加する「室蘭原水協」は、高校生が書いた原爆の絵の展示を行いました。

被爆者との聞き取りから広島の高校生が書いた絵は、写真よりもリアルに思いが



こもったものでした。

毎月班会21年超

新会員も飛び入り

空知民商

空知民商・岩見沢支部の幌向班は、班会を毎月行っています。「正確にはいつから始まったのかわからなけれど、Oさんが札幌東部民商から移ってきてから毎月やり始めたんですよ」と話す班長の村岡さん。少なくとも21年を過ぎたところです。現在の幌向班は会員が2名になってしまいましたが、廃業して商工新聞読者になった元会員などを交えて班会を続けています。

7月23日の班会には、別の班ではありますが同じ岩見沢支部の新会員Tさんが飛び入りで参加。村岡さんが用意してくれたお茶とお菓子、差入れの夕張メロンやシュークリームが並ぶテーブルを囲み、楽しくおしゃべりしました。



暑い夏の一日

200人がビールで乾杯

旭川民商・婦人部

8月9日、旭川民商婦人部恒例のビールパーティを開催。集まった約200人が暑い夏の一日をビールで乾杯しました。

あいさつで入江婦人部長は「今年も皆さんとお会いでき、とてもうれしいです。しかし今日は80年前に長崎に原爆が投下された日でもあります。多くの命が一瞬で奪われ、二度と起こしてはならない事なのに、今と返そうとする状況になっていることが悲しいです。私たちはもちろん『平和でこそ商売繁盛』を合言葉として、今夜は楽しく過ごしましょう」と歓迎しました。

続いて旭川市長選挙にたいつ、明るい旭川の会の石田ひさとし予定候補からも来賓あいさつを頂きました。石田さんが旭川民商事務局長時に、民商が実現した国保料引き下げや、住宅リフォーム助成制度創設の成果に触れながら、「今津市政はこの4年間、民商が実現してきた制度や住民福祉をことごとく縮小し、なくそうとしていきます。国がすすめる軍拡行政などをそのまま市政に持ち込ませるのではなく、市民の利益になる市政を取り戻すため、民商の皆さんとともに選挙戦をたた



てくれたからなにより」「最近ではファミリー層も増えて賑やかでいいね」と笑顔でした。

好天に恵まれ

飲食囲んで交流

稚内民商

7月27日、毎年恒例のジーンズカンパニーを民商事務所前で開催しました。数日前までは雨予報が出ており、また風の強い日も続いていましたが、当日は晴れ間もあり、風もほとんどなく、まさにジーンズカンパニーの日の中での開催となりました。

開催2日前の金曜日には婦人部で買出しと野菜切りを行い、当日は役員や参加者の大学生がテント立てやイス・テーブル並べ、炭起こしなど準備を手伝ってくれました。

参加者数は昨年とほぼ変わらなかったものの、好天に恵まれたこともあってかジーンズカンや焼きそば、中村会長提供のホタテが次から次へと参加者の胃袋に消え、肉や飲み物を追加することになりましたが、参加者は食べ物や飲み物を囲みながら、交流を深めていました。

午後4時頃にお開きとなり、参加者にも手伝ってもらいながら片付けを行い無事終了。その後も事務所内に場所を移しての交流は夜遅くまで続きました。

婦人部役員は「参加者は減ってきていて寂しい気もするけど、楽しかったと言っ